

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 97 2012.9.30 連絡先 402-1622 >

後援会バスツアーに 行ってきました

9月16日、後援会のみなさんと一緒に、ぶどう狩りバスツアーに行きました。
場所は、有田川町千葉(せんば)フルーツパークです。千葉山(標高400m)の上まで、山肌に沿ったヘアピンカーブの道を上ると、有田の町がみるみる下になり、景色はずばらしいものでした。風力発電の大きな風車のすぐそばにフルーツパークはありました。この風力発電は東京電力のものだそうです。初めて知りました。おいしいぶどう(巨峰)をたっぷり頂き(試食は一人一房でしたが...)、お弁当も食べて、みなさんと歌も歌い、2時間はあっという間でした。

山を下りて、どんどん広場へ。具がたっぷりの名物お寿司や、長~い南瓜、ハウスみかんなど地元産の野菜・果物を買ったり、おいしいソフトクリームを食べたりと、それぞれに買い物を楽しみました。

次は、海南藤白神社です。特別に宮司さんのお話を聞くことができました。原発はダメという話を入口に、和歌山で廃仏毀釈(明治政府の神仏分離による寺院の廃合、仏像・仏具の破壊)の中をくぐり抜け、祭神(熊野の神々)の本地仏(神の正体)とされる阿弥陀如来、薬師如来、千手観音などの仏像を守りぬき、いま、国宝指定をめざしているということでした。貴重な仏像の前で、やさしそうな宮司さんのお話は心に残りました。

最後は、中野酒造で試飲したお酒の美味しさに、「頑張ったときのご褒美」用に使ってしまいました。

盛りだくさんの中身でしたが、自然を感じ、歴史を知る、バスツアーでした。



みの人あり、楽器を鳴らす人あり、楽しく、にぎやかにリズムカルに時間はあっという間に過ぎていきました。



みち子のひとりごと

初・関電前行動

歩く人の邪魔にならないように、車道側に1列に並んで、思い思いのプラカードを持って立ちます。
「今日はたまたま県庁に用事があったんでね」という田辺の人あり、「動物の代表として参加しました」という着ぐるみ



毎週金曜日、東京の首相官邸前で「原発反対」の運動に呼応して、和歌山でも関電前に集まり始めて9回目、21日に初めて参加しました。7人から始まったこの行動も、3~40人が集まるようになってきました。

南畑さちよ議員の一般質問

産廃処分場 計画の説明不十分

南畑議員は、処分場予定地に隣接する大阪府阪南市で産廃業者が6月に開いた説明会について、「アスベスト、環境汚染、大洪水、地震対策、施設設置後の安全管理などに関する住民からの質問について検討中をくりかえし説明責任を果たしていない」という阪南市民の怒りの声を紹介し、市の姿勢を質しました。

市民環境局長は「住民の不安を取り除くには十分な説明ではなかった」と答弁しました。

産廃業者が汚染水対策として遮水シートを処分場に敷くとしていることについて南畑議員は、全国の産廃処分場で遮水シートの事故が発生していることや設置基準について市の見解を質しました。市は、「滋賀県の管理型最終処分場で遮水シートの破損事故の事例を把握している」「(事業者に)環境省基準に準じた設置を求める」と答弁しました。



くにしげ秀明です

よろしく

おねがいします



がる国を
みなさん
と一緒に
作りたい」。

よく言えたものです。

国民の反対を押し切つて
消費税増税の法律を強行
し、原発ゼロは言葉だけ
で何の裏付けもない方針

に希望と安心が得られる、
真に「笑顔が広がる国づ
くり」が必要だと、この
発言を聞いて改めて思い
ました。

9月21日、野田首相
が民主党代表選で当選を
決めたあと、次のように
述べました。「笑顔が広

日本の巨大メディアを考える

志位和夫

しかし、大手5紙などの巨大メディアを全体として見た場合、「権力のチエック役」というジャーナリズム本来の仕事を果たしていると言えるでしょうか。アメリカやイギリスの新聞やテレビがやったように、社運をかけて、国の進路の根本にかかわる問題を取り上げ、時の政権を覆す気概を持って論陣をはったことがあるでしょうか。

「権力のチエック役」どころか、逆に、財界やアメリカの意向をそのまま受けて、「何をもちもたしているんだ。もつとしっかりやらなくてはだめじゃないか」と尻をたたく、悪い方向に「チエック」する役割を、いまや巨大メディアは果たしているのではないのでしょうか。

なぜそういう実態になっているのか。私はまず、日本のメディアの、歴史的な弱点を指摘しなければなりません。

日本の大手新聞は、日本軍国主義が侵略戦争をすすめた時期に、戦争賛美と、「聖戦への国民の動員」の旗をふりつづけました。真実をねじまげ、戦争礼讃の記事によって、販売部数を拡大し、国民世論を誤った方向に導いた。その責任はきわめて重大です。ところが、敗戦を迎えた1945年、各新聞は、みずから侵略戦争を賛美し、加担してきた事実への真剣な反省をしないまま、しかも、戦前・戦中の旧経営陣の多くが居座ったまま、戦後も新聞を発行しつづけました。